

●内國金物商況

銑鐵 過去一ヶ月に英國クリップランド銑約三千噸の交渉纏まりたるも此の以外は目下先物跡約定の能力あるものは印度、タタ社あるのみ最近入荷印度銑約五千噸支那及滿洲三千噸にして此の地方以外は製産額に違算を生したる者、又は陸海軍の注文に追はれたるものにして十分なる數量を供給する事を得ず、將來品薄の氣味を有し一方需要案外増加の爲め氣配強く、目下東京方面百圓大阪九拾五圓見當なり。

鋼材 相變らず賣行き渉々敷からず、荷動き少くして各店持品比較的多量なり、殊に最近米國品入荷棒鋼（主として丸）七千噸、板鋼一千噸形物其他二千噸、彼れ此れ一萬噸を計上し、棒鐵類は爲めに荷悶への氣味にして四分、五分丸に至りては随分安値賣物もある模様なり、目下成行相場棒鐵百拾五六圓、板鐵百六七拾圓、形物貳百八九拾圓にして一般市況緊張せるものは造船用材にして、造船業者は目下材料仕入困難にて勉めて買入に熱中せるを以て、形物、大形丸角物は賣行宜し依て當分は造船材は氣配強けれども、棒鐵の細きものは當分居据りなり、八幡製鐵所にては最近に於て棒、板、形物貳拾五圓、軌條拾圓、ポルトナット、スパイキ、リベット參拾五圓、繼目板拾五圓、亞鉛引鋼板拾圓等値上實行せるも、同所にては市場向普通注文品は目下引受

をなさると元と市場相場とは格段なる相違ありたることとして、此れか爲め一般市況に影響する處少し只近々一般市場に分配すべき在庫品の賣値に關係すると同時に、陸海軍及鐵道院以外の官廳向賣値か多少市場値段に一步を進めたるに過ぎざるなり。

亞鉛引鋼板 一時非常の昇騰に反し、目下相當の在庫品あると差當り一般に需要減退したる爲め、波、平板共荷動き無く所謂處分もの、始末付かす、市況稍沈靜の狀態なり、平板三十番一枚壹圓拾錢見當なり、外注品最近四五百噸の入荷あれとも一時の高値を夢み居り賣惜みの氣味あるを以て直ちに荷捌出來す、今後特別の大口需要なき限り目下昇騰の見込なし、英本國よりの入電に依れば亞鉛引波板は百斤六百八十二片半にして之を邦貨に換算すればゲージ三十番六尺壹圓七拾錢七尺貳圓壹錢八尺貳圓貳拾錢に相當し内地市價平均一枚壹圓六拾錢乃至壹圓六拾五錢に比すれば實に約五拾錢の相異あり又三尺及ひ六尺の三十番コメット印平板は六百九十片にて換算一枚壹圓九拾參錢と之亦我時價壹圓六拾錢に比し參拾參錢の値幅あり平波板は從來本國相場と出會ひ居れるも曩日の熱狂相場に需要著しく減退せると市中金物屋の手持比較的豊富なるとの爲此は下落したるものにて殊に今回の英國禁輸には何等の關係なければ市價恢復には尙三四ヶ月の時日を要すへきか。

鐵力板。成行相場百七十封度 JOW 一箱參拾壹圓百封度

○ 拾八圓九十封度拾七圓見當なり、目下外注品着荷あるも戦亂の今日其數量豫測し難し、尤も大阪在荷約二萬五千箱相當手持筋二三あれとも需要時期の割合には荷捌けず、何れも賣逃けに意を注げ居れり今後外國相場下落なき限り相當の値段を持続するならんも、今後數ヶ月間の喰物はある可し。

● 銅 銅相場は前號所報後暴騰に次ぐに暴騰を以てし、最近に至り現物百三十九磅、先物百三十三磅、電氣銅百五十三磅と未曾有の高價を傳ふるに至れり、是れ畢竟するに倫敦に於ける銅の需給關係は猶緩和せざるか爲めなり、之に反し内地相場は前月來一向活氣立たず、何等の影響を受けざるのみならず、却つて實地賣買相場に下値を示せるものありて而かも尙商談は捗々しからず。

● 亞鉛 ロンドン相場は最近一噸に付現物九十五磅を報し、月餘の内に十磅方下押せり、然るに戦争の依然たる限り銅と亞鉛の需用は減退せざるべきを以て銅か高値を持続せるに、亞鉛のみ單り低落する筈なれば此上深き押目を期待し難きに似たり。

● 鉛 近頃濠洲方面より弗々入荷あるため何等市況の轉換を誘致するに至らず、依然不味の商情を持続し居れり。

● 錫 目下罐詰類の製造時期に相當し居ることゝして、市場弗々商談行はれ、内地市場は各多少の高値を報せり。

● 安質母尼 先般硫化安質母尼の輸出商談成立せりとて、

一時強硬なる氣配を現はしたれと噂のみにて立消の爲め茲許漸落の步調なり。

米國輸出と我國

米國鐵類は昨年賣止めを斷行し、未だ既約品の輸入不可能の状態に在るが今回米國トラスト團は、運賃噸廿八弗増を以て、來る七月中に既約品全部の積出を完了する筈なれば、我國への米國鐵類は今後續々輸入せらるゝ豫定也、而も此の積出に依りて、實際幾許の輸入を見るに至るべきかは、蓋し興味ある問題にして、一時暴騰を見たる我が鐵物界も、其の後輸入品の漸次増加せる爲め、市中相場は激落を見るに至り現今に於ては、暴騰以前に於けると殆んど差異なき狀況を呈し居れり、即ち噸廿八弗の増運賃を支拂ふに於ては、相場は内地相場以上と爲り、少くとも目下内地在荷を一掃し盡せる後にあらざれば、到底實行を見るに至らざる事明か也、果して然らば目下必要缺くべからざる建築材料乃至造船材料等焦眉の急に在るもの以外は、容易に此の増運賃を拂つて輸入を爲す者はあらざる可く、隨て相場は俄然低落又は騰貴を來たす事なく、依然現時の状態を持続するものと見るを得べし、殊に現時内地鐵類の缺乏を感ずるは、寧ろ鋼類にあらずして銑鐵なるに於て、其影響は殆んど皆無といふも可なるべきか、唯だ厚板に至りては、今後の注文不能を見越して、多少引締の傾向現はれ居れり、但し鐵類暴騰の聲を發して以來、内地需要額は著しく減少し、加ふるに投物又は轉賣物積出の爲め相場は却つて低落し、米國産地相場に比し三圓方の下位に在る有様なれば、米航船腹増加の今日と雖も、尙ほ輸入皆無の状態に在り、今後漸次奔騰の傾向を持続するも、十六圓以上に及ぶ事なかるべく、即ち十五圓以上に達せば、米國鐵の輸入に依りて相場は自然調節せらるべきを以て、今回の騰貴は強ち悞るゝに足らずと云へり。